

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援にこふる			
○保護者評価実施期間	令和7年11月12日 ~			令和7年12月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	令和7年11月12日 ~			令和7年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月5日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別の支援がある	WISCの検査結果をお持ちの方には持参いただいている。それぞれのニーズに応じて毎回個別課題の時間を設定し、支援計画に基づいた支援を行っている。	職員のスキルアップを向上するために、互いの支援の様子を見たり、支援したことの共有をしたりして、全ての職員が対応できるようにする。
2	不登校支援がある	個別のニーズに重点を置きながら、学校に代わる居場所として成り立つように学習支援や生活スキルの向上、生活リズムの安定に寄与するようにしている。	今後、希望に応じて学校と連携して、生活の場が広がるように取り組む。
3	明るくて広い空間があり、構造化して使用している	何をする場所かお子さんにわかりやすい空間になるように活動場所を設定している。必要に応じてパーテーションを使用し、さらに構造化している。	構造化の意味やそこでの活動を全職員ができるよう構造化の内容を共通理解する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎がない	送迎がないことによって、仕事の都合がつかない等、利用を断念する家庭がある。	職員が利用しているお子さんやご家族への支援に注力するためであり、送迎がないことは弱みではあるが、その分、ご家族への支援が充実するよう今後スタイルを継続する方向である。
2	空き枠がない	児童発達支援と多機能型の事業所であり、児童発達支援の日数が多く、放課後等デイサービスの日数が少ない	毎年決まった時期に来年度の利用希望調査を行い、空き枠が出たら案内できるようにする。 待機者リストを作成して、空き枠が出たら連絡する取り組みを行う。
3	保護者向けの勉強会など、まだしていない	基準人員のみで営業していたため、保護者向けの勉強会の準備まで至らなかった。 開所して1年経過していないことから、ご家族のニーズを把握しきれていないことも要因である。	職員が増員できたため、ご家族のニーズを把握し、ニーズに応じた保護者学習会を来年度は行う予定である。